

# 梨と梅の花芽分化期及び其發生に就て

大阪府立農事試験場

江口 庸雄  
大塚 耕二

一 昨年以來引續き花芽の實驗に従事して居りますが、昨年度大阪府立農事試験場に於て得た梨と梅の花芽分化期及び其發生經過に就て報告致します。

## A、梨

### 一、材料及方法

一 昨年同様、洋梨、和梨、廿四品種に就て花芽分化期、及今村秋に就て花芽の發生經過を視た。材料は何れも九年生一反歩七五本植、柵仕立、品種に依つて鱗片數に多少の相違はあつたが略々二〇枚前後で内部生長點に達す。分化期以前の内部生長點は桃の場合と稍々趣を異にして平坦狀を呈して居る。

### 二、分化期

各分化期を表に示せば次の通りである。

昨年度及び一昨年度を通じて得た結果から見れば

(a)、長十郎、早生長十郎、眞鐘は最も早く分化し

(b)、パートレット、赤穂、北海早生、太白、市原早生、獨逸は稍々早く

(c)、太平、赤龍、フレミツシユピユウチーは稍々遅く

梨と毒の花芽分化期及び其發生に就て

	品 種 名	1928 分 化 期	樹勢
1	長 十 郎	6月13日稍前	中
2	早 生 長 十 郎	6月13日稍前	中
3	眞 鐘	6月13日稍前	中
4	パ ー ト レ ッ ト	6月13日稍前	強
5	赤 穂	6.13—6.20 月 日 月 日	中
6	北 海 早 生	6.13—6.20	強
7	大 白	6.13—6.20	強
8	市 原 早 生	6.13—6.20	強
9	獨 逸	6.13—6.20	強
10	ヤ ー リ ー	6.13—6.20	強
11	バ ス ク レ サ ン ヌ	6.13—6.20	弱
12	博 多 青	6.13—6.20	強
13	幸 藏	6.13—6.20	強
14	太 平	6.20—6.27	中
15	赤 龍	6.20—6.27	弱
16	フレミツシユピユウチー	6.20—6.27	強
17	廿 世 紀	6.20—6.27	強
18	早 生 赤	6.20—6.27	強
19	キ ー フ ア ー	6.20—6.27	強
20	國 長	6.20—6.27	弱
21	今 村 秋	6.27—7.4	強
22	明 月	6.27—7.4	強
23	土 佐 錦	6.27—7.4	弱
24	ツ ー リ ー	8.1—8.8	強

梨と莓の花芽分化期及び其發生に就て

(d)、今村秋、土住錦は一番後れて居た。

總括的に見て大阪では六月二〇日前後が分化期と思はれる。

### 三、分化期比較

(a)、今村秋は一九二六年(1)駒場で得た結果より約三〇日早い。

(b)、キーフアーは一九〇九年 Virginia で Drinkard (5) 氏の得た七月一五日より約二〇日早い。

(c)、バートレットは一九一三、一九二二年 California で Henderson (5)、Wiggins (5) 氏の得た七月三日、七月四日より稍早く、一九二三年 California で Tuff and Morrow (5) 氏の得た六月二一日と略々同じ結果を得て居る。

### 四、發生經過

今村秋を使用して見た花芽發生經過に依れば

(a)、九月二六日、Petal, Stamen 發生

(b)、二月二八日、Stamen は Anther の Filament に分れ、五本の Pistil も出來て居る。

(c)、三月二一日、Anther 中の Pollen grain, Ovary 部の Locule, Ovule も出來て居る。以上は Früheste der Mark 種に就て Oppenheim で (2) Kraemer 氏の得た發生經過より稍々後れて居る。

### B. 莓

#### 一、材料及び方法

品種は New-Oregon 一九二六年一月一六日親株を定植し、一九二七年六月二〇日、本葉三枚を生じた第一 Runner

の整一な苗約五〇〇本を選び、豫め整地せる四尺の平畦に條間一尺、株間五寸に定植して八月一〇日より一〇間置きに一〇株づゝを採つて實驗に供した。

## 二、分 化 期

外部より約一二―二三枚の葉を取り除くこ内部生長點に達する。分化期以前の生長點は平垣狀で梨の分化期以前の生長點に良く似て居る。一〇月九日、生長點が肥大伸長して圓頂狀となり遂に平垣狀となつて全く分化期に達する。一二―二三枚目の葉 (Primordial) の Axis には側花芽の突起が見られる。

## 三、分 化 期 比 較

一九〇〇年 Wisconsin で Dunlop 種に就て (4) Goff 氏の得たのも九月下旬、一九〇六、一九〇七年に Iowa の農科大學で Raff and Richey 氏等の得た結果も九月下旬が分化期であつて、筆者の得た結果も九月下旬―一〇月上旬が分化期であるから略々一致して居る。

尙ほ一九二五、一九二六、一九二七年 Canada で Hill & Davis (3) 氏が Locomoke 種に就て得た九月一九日より稍々後れて居る。

## 四、發 生 經 過

- (a)、一〇月二九日、Stamen には Anther の Filament が見られ Pistil の初生突起も出來て居る。  
(b)、一二月二八日、Anther には Pollen grain が充滿し、Ovary には既に Locule、Ovule が形成されて居る。

以上に依れば苺は他の果樹類より著しく早い發生經過を辿つて一二月迄に花蕾の大部分は完成されて居る事になる。

梨と苺の花芽分化期及び其發生に就て

尙ほ今後、花芽分化期及其發生經過と他の諸要素との關係を究むる上に於て母は取り扱ひも至極簡單であり且比較的整一な材料も得易から試験材料として恰好の物だと思つて居る。(一九二九、九、二七)

- 1、山口藤雄(1927)果樹の花芽分化期に就いて 農學會報, NO. 292 PP. 111—121
- 2、Elassman, E., (1925) Ueber die Periodizität der Blütenentwicklung bei den Obstgehölzen, Landw. Jahrb. Bd. L. XII, Heft. 4 SS. 539—606.
- 3、Hill, H. and M. B. Davis, Studies in strawberry bud differentiation, Dominion of Canada, Department of Agriculture, Bull No. 110, p. 8, figs 7.
- 4、Ruff, J. U and H. W. Richey, (1925) A study of flower bud formation in the Dunlap strawberry, Proc. Amer. Soc. Hort. Sci. 22, pp. 252—260.
- 5、Tutts, W. P. and E. R. Morrow, (1925) Fruit-bud differentiation in deciduous fruit, "Hilgardia" California Agr. Exp. Sta. Vol. 1 No. 1, pp. 1—14

## 牛の精蟲に就いての生理學的研究

京都府立醫科大學生理學教室 小松 伊三郎

此の研究は、將來余のたづさはらんとする牛の人工授精術を眼目に置き、それに必要なる基礎的智識を養成し、併せて目下新學研究問題の一端に觸れん事を企圖したるものにして、必ずしも嶄新未開の問題のみを研究せるものに非ず、